

## 夏を乗り越える熱気「対馬アリラン祭」

今年の夏は10年ぶりの「酷暑」で、ただ立っているだけでも汗がだらだら垂れるほどでした。この暑さが永遠と続きそうな気がして、頭がくらくらとなりましたが、今はもう秋のそよ風が吹き始めています。

その暑い日乗り越えた行事が対馬アリラン祭りでした。本番の8月8日。

朝から30度を超える炎天下の中、厳原港舞台の周辺や町内を準備で走り回るスタッフ、舞台ではリハーサルする舞踊団。

午後になり、朝鮮通信使行列の参加者はそれぞれの場所に着替えて金石城の櫓門に集まりました。今からさかのぼること400年、衣装や歩き方、気持ちまでタイムスリップした参加者の表情は真剣そのものでしたね。特に衣装は当手を再現しており、暑いのに何枚も着込んでいて、それを知っている私としては参加者を尊敬するばかりでした。

行列の進行が始まり、通信使のプラカードを始め、対馬藩主、雨森芳洲、武士、清道旗、国書、正使、副詞、韓国宮中楽団などが歩きだしました。今年は、対馬藩主役に木谷助役、雨森芳洲の役には平間議会議長が務めました。韓国からは、正使役で釜山広域市副市長が、副使には釜山広域市議会議副議長が務めました。

このほかに対馬では幼稚園の子供から中年の社会人まで様々な方々が、韓国からは韓国宮中楽団

で釜山情報女子高校、ペギンセ舞踊団が参加しました。今年も行列の参加者は430名に上り、強い陽射しの下でより一層輝いている様に見えました。

行列が会場に着くとスタッフはおしぼりと飲み物を渡して、参加者が脱水症状にならないように気を配る様子を垣間見、祭りの準備・進行を通し見えない所でのスタッフの苦勞にただただ頭が下がるばかりでした。会場での国書交換も終わり、歴史を今日に甦らせること25回目の通信使行列の再現に終止符が打たれました。

アリラン祭りの写真、朝鮮通信使行列のデジカメの写真をプリントアウトしてじっくりと見ていたら、ふと小



国書交換式

さなごく小さな点(画素)が集まり画像を作っていることに気がつきました。そこで思いました、歴史ということもその中で、小さな人が集まり作る画面だということ。

その画面の色や鮮明度は一人一人の努力や心構えで作られるものではないかと？

皆様の歴史を大事にする考え方や韓国に対する誠実なお気持ちが今日の色鮮やかな通信使行列という画面を作っているのでしょう。

その画像の中、私を含めた対馬釜山事務所も一つの点としてこれからも頑張ります。

しかし、真夏の陽射しを丸々受けてくっきりと私の顔で頑張っているこの黒い斑点だけはなんとかでも隠したいですね。^^ ; ; ;